

新聞ボール段紙板

(昭和35年12月7日第三種郵便物認可)

毎月7日、17日、27日発行

第二六三四号

(二〇一六年)

28年8月27日

クラウン・パッケージ

平和への思い共有・継承

平和記念公園折り鶴
再生・循環 共同プロジェクト

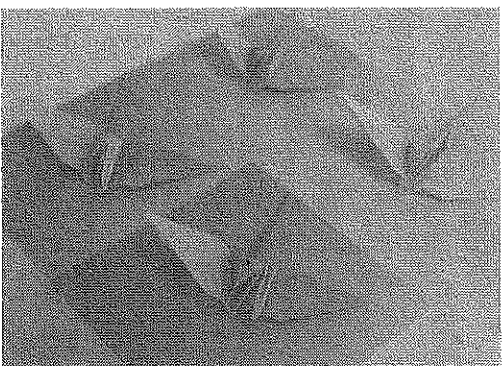
(株)クラウン・パッケージは、コニカミノルタジャパンなどと共同で「折り鶴の再生・循環プロジェクト」を開始した。広島市の平和記念公園の折り鶴をおりがみに再生する取り組み。「折り鶴に託された平和への思いを共有し、新たな『思い』として継承」することをコンセプトとしている。

平和記念公園には、国内外から年間約1千万羽の折り鶴が捧げられており、これら一羽一羽には、平和への思いが託されている。同市は、この平和を願う輪を広げていくた

め、「折り鶴に託された思いを昇華させるための方策検討委員会」を設置。検討の結果、最終とりまとめが2012年、市長に報告された。このプロジェクトに賛同し今回のプロジェクトを決めた。同プロジェクトでは、平和記念公園の折り鶴を、クラウン・パッケージと紙器製造(株)トモエの管理のもと、広島市内で紙以外のものを取り除く作業を行った後、再生紙に加工。その再生紙をもとに、「コニカミノルタが断裁、印刷、加工を行い、折り鶴からの再生おりが

みを制作する。それを近畿日本ツーリストは、修学旅行などの学校行事で平和記念公園を訪れる予定の学校に平和学習の教材として有償で提供、子供たちによって折られた鶴は、再び平和記念公園に捧げられる。

なお、プロジェクトの主旨は、UNESCO憲章に基づき、平和な地球社会の構築を目指す日本ユネスコ協会連盟の活動目的と合致すると認められたため、再生紙「カラフルウィッシュ」を用いて作られるおりがみの売上げの一部は、クラウン



㊤「カラフルウィッシュ」㊦同製品を使用した実績品

・パッケージを通じて日本ユネスコに寄付される。